

平成 25 年 11 月 7 日

■公開授業

2年生の国語の授業。本時のテーマは、「しかけカードの作り方」。しかけカードの作り方についての説明文が5枚の短冊カードに分かれているので、文章や絵を参考にしながら、短冊カードを正しい順番に並び替えよう、というものです。



先生からの「短冊を並び替えて、その順番にした理由を短冊に書きこんで下さい。」という指示とともに、各自が机の上で5枚の短冊と格闘開始。ある程度時間が経つと、今度は隣の人と話し合い。自分の考えを隣の人に説明しているうちに、自分の考えが変わる児童や、相手の説明を聞いているうちに、新たな気づきを得る児童も。

そして、全員で考える時間。先生が発表者を募ると、たくさんの児童が元気よく挙手！素晴らしい積極性です。数人が発表した後、先生が何やら電子黒板を引っ張り出してきました。児童の発表に、電子黒板を使うようです。電子黒板に短冊を映し出すと、みんなの視線がさっと集中。



再び先生が発表者を募ると、ここでも大勢の児童が挙手！先生が発表者を指名すると、他の児童はさっと前に集まり、モニターを注視。発表者は、モニターに自分の短冊を映し出し、時折並び替えながら、自分の考えを発表します。短冊に書き込んだ内容も電子黒板に映し出されるので、発表もしやすく、また聞き手の理解もスムーズです。

■授業研究会

授業終了後、参観した先生方や授業を行った担任の先生が集まり、授業の進め方等について意見交換を行いました。担任の先生からは、「児童が接続詞に注目したのはよかったが、話が接続詞に何度も戻ってしまい、文章の内容にもっと目を向けさせたかった。」など、反省の弁が述べられます。



グループ別討議の後の、全体発表。様々な角度からたくさんの意見が出されました。

参観した先生からは、「本日は正解を出さなかったが、一度正解を出した上でその理由を考えさせてもよかったのではないか。」「内容に注目させるため、短冊の絵は無くてもよかったのではないか。」等の意見が出された一方で「じっくり考えさせたのはよかった。」「短冊に絵を入れたことで、文章が苦手な児童にとっては良いヒントになった。」という意見もありました。

また、ICTの活用に関し、「児童は電子黒板に注目するので、もっとキーワードをズームアップすればよかった。」といった意見も出されました。

■最後に

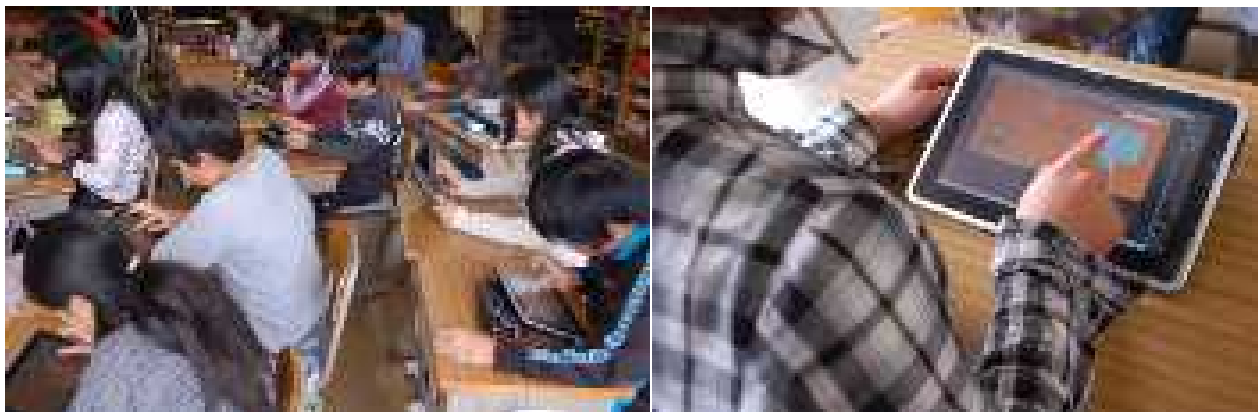
総括として、指導者である専門主事から、アナログとデジタル（ICT）をうまく使い分けることが重要であり、各先生が、自分の得意とする ICT 機器を1つ持つことが重要だ、との話がありました。

筆者の目から見ても、電子黒板が出てきたときの児童の集中力の高まりは、目を見張るものがありました。授業の中で一番集中させたい部分で ICT 機器を活用する、といった手法も有効かもしれません。

授業研究会では、このレポートではとても書ききれないくらいたくさんの意見が出され、各先生方が日ごろ様々なことに配慮して授業を進めているのだ、と感じました。

担任の先生が作成したこの公開授業に関する資料も見せてもらいましたが、児童1人1人の状況を踏まえ、それぞれの児童にどんな力を付けさせたいのか、という目標を明確に持って、授業を進めていることがよくわかりました。

最後に、急なお願いにもかかわらず私の訪問をご快諾いただき、授業研究会にまで私を参加させてくださった校長先生、教頭先生をはじめとする諸先生方、貴重な体験を本当にありがとうございました。



4年生以上の全員に1台ずつ配備されたタブレット端末による5分間ドリル学習。4～6年生が毎日取り組んでいます。スタートの合図で音楽が流れ始めると、みんなの集中力が一気に高まり、次から次へと計算問題を解いていきます。とにかく集中力が凄い！

（文責 教育総務課 石川直樹）

[目次に
戻る](#)